

30th

ANNIVERSARY
Okayama Prefectural University

鮮緑の風、県大力

概要版

岡山県立大学 開学 30 周年記念誌

1993-2023



岡山県立大学 開学30周年記念誌 - 概要版 -

Okayama Prefectural University 30th Anniversary Overview

INDEX

◆目次	1
◆岡山県立大学開設の経緯と30年の歩み	3
◆座談会「岡山県立大学が目指すもの」	5
◆岡山県立大学の施設	11
◆データで見る岡山県立大学	13
◆岡山県立大学キャンパスソング「鮮緑の風」	14



鮮緑の風 県大力

1993年4月に開学した岡山県立大学は、このたび開学30周年を迎えました。

本学の前身でもある岡山県立短期大学は、岡山栄養科学園(1946年開校)、県立高等看護学校(1962年開校)、県立保母養成所(1949年開校)が、1961年に改組、統合され岡山県立大学の開学に繋がっています。70年以上の歳月を経る中で、大学開学に伴い校舎は総社市へ移転し、大学院の設置や2007年の公立大学法人化を経て現在に至っていますが、この間、2万2千人もの有為な人材が社会に巣立っております。

建学の理念である「人間尊重と福祉の増進」の実現に向けて、他の教育研究機関や地域社会との自由かつ活発な交流連携を重ねて、人間・社会・自然の関係性を重視する実学を教授研究するとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えた、新しい時代に挑戦する人材を輩出するなど、地元経済のみならず全国の地域社会の発展にも多大な貢献をしております。

30年前の開学当時に植栽された樹木は齢を重ね、しっかりと根圏が拡がり、キャンパスに命を吹き込んでいます。その空間を吹き抜ける鮮やかな緑の風は知と感性と若さの象徴。鮮緑の風を感じ、本学に関わった総ての人々により創り出された県大力は、これを機に、斬新な地域の未来をしっかりと拓いていきます。

開学30周年記念シンボルマーク

本学のシンボルカラーであるパープルとサブカラーのグリーンを使い、「30」を本学の略称 OPU をモチーフにして表現しました。スローガン「鮮緑の風、県大力」とともに様々な場面で活用し、開学30周年を彩ります。



岡山県立大学開設の経緯と 30 年の歩み

岡山県立大学

社会の出来事

岡山県立大学		社会の出来事	
11月	岡山県高等教育検討委員会設置	1986 昭和 61	英チャールズ皇太子、ダイアナ妃来日 5月
9月	県立大学構想検討委員会設置	1988 昭和 63	瀬戸大橋開通 4月
12月	県立大学建設地を総社市窪木地区と決定	1989 平成元	ベルリンの壁崩壊 11月
10月	県立大学基本構想発表	1991 平成 3	ソビエト連邦解体 12月
12月	県立大学・同短期大学部設置認可 岡山県立大学条例公布(2007年3月廃止)	1992 平成 4	PKO 協力法成立(6月)、自衛隊をカンボジアに派遣 9月
4月	開学(保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部、短期大学部)	1993 平成 5	皇太子殿下 小和田雅子さんとご結婚 6月 EU発足 11月
4月	大学院 保健福祉学研究科(修士課程) 情報系工学研究科(修士課程)設置	1997 平成 9	消費税5%に引き上げ 4月 香港 英植民地から中国に返還 7月 郵便番号が5桁から7桁に 2月 長野冬季オリンピック・パラリンピック開催 2・3月
4月	大学院 デザイン学研究科(修士課程)設置	1998 平成 10	サッカーW杯フランス大会開幕 日本が初出場 6月 NTT ドコモ iモードサービス始まる 2月
4月	大学院 情報系工学研究科(博士後期課程)設置	1999 平成 11	国旗・国歌法成立 8月 コンピュータ 2000年問題 各分野で警戒 12月
6月	共同研究機構設置	2000 平成 12	介護保険制度スタート 4月 鳥取県西部地震 10月
4月	保健福祉支援センター設置 メディアコミュニケーション支援センター設置	2002 平成 14	学校週5日制 毎週土曜日が休みの完全実施 4月 住民基本台帳ネットワーク(住基ネット)スタート 8月
4月	大学院 保健福祉学研究科(博士後期課程)設置	2003 平成 15	日本郵政公社発足 4月 テレビ地上デジタル放送開始 12月
6月	サテライトキャンパス設置(2006年7月廃止)		
8月	全学教育研究機構設置 地域共同研究機構設置(2020年3月廃止) 共同研究機構を産学官連携推進センターに名称変更(2020年3月廃止)	2005 平成 17	JR 福知山線脱線事故 4月 クールビズ開始 6月
10月	保健福祉支援センターを保健福祉推進センターに名称変更(2017年3月廃止) メディアコミュニケーション支援センターをメディアコミュニケーション推進センターに名称変更(2012年3月廃止)		
4月	情報工学部 スポーツシステム工学科設置 デザイン学部 学科再編(デザイン工学科・造形デザイン学科設置)	2006 平成 18	65歳以上の高齢者の割合 初めて20%超 高齢社会白書 6月 北海道夕張市が財政破綻 3月
3月	短期大学部閉学		

4月	公立大学法人岡山県立大学設立 保健福祉学部 保健福祉学科改組	2007 平成 19	郵政事業 民営化	10月
4月	健康・スポーツ推進センター設置 (2015年3月廃止)	2008 平成 20	後期高齢者医療制度スタート	4月
4月	大学院 情報系工学研究科人間情報システム工学専攻(博士前期課程)設置 大学院 デザイン学研究科(修士課程)再編(デザイン工学専攻、造形デザイン学専攻設置)	2010 平成 22	i Phone 日本で発売	7月
4月	認定看護師教育センター設置 (2016年3月廃止)	2011 平成 23	米の大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻	9月
4月	福祉・健康まちづくり推進センター設置 (2015年3月廃止)	2012 平成 24	高校の授業料実質無料化	4月
4月	保健福祉学部 保健福祉学科再編(社会福祉学専攻、子ども学専攻設置) 大学院 保健福祉学研究科(博士前期課程)看護学専攻再編(保健師国家試験受験資格取得)、情報系工学研究科(博士前期課程)再編(システム工学専攻設置)	2013 平成 25	東日本大震災(東北地方太平洋沖地震) 九州新幹線 博多～新八代間開通し全線開業	3月
10月	大学教育開発センター設置 国際交流センター設置	2014 平成 26	地上テレビのアナログ放送終了 地上デジタル放送に移行	7月
4月	情報工学部 スポーツシステム工学科を人間情報工学科に名称変更 全学教育研究機構を共通教育部に名称変更 教育研究開発機構設置(2019年3月廃止) 総合情報機構設置(2019年3月廃止) 情報基盤活用推進センター設置 広報メディア開発センター設置 地域連携推進センター設置(2020年3月廃止)	2015 平成 27	東京スカイツリーオープン	5月
10月	学術研究推進センター設置	2016 平成 28	公職選挙法改正 インターネットによる選挙運動解禁	4月
4月	COC+ 推進室設置(2020年3月廃止)	2017 平成 29	富士山が世界遺産に登録	6月
12月	学生支援室(SAS)開設	2018 平成 30	消費税5%→8%	4月
7月	平成30年7月豪雨災害のため学内に避難所を設置	2019 令和元	安全保障関連法案成立	9月
4月	キャリア・学生生活支援センター設置 大学教育開発センターを教育開発センターに、情報基盤活用推進センターを総合情報推進センターに名称変更	2020 令和2	マイナンバー法施行	10月
4月	地域創造戦略センター設置 国際交流センターをグローバルラーニングセンターに名称変更 アドミッション・高大連携センター設置	2021 令和3	熊本地震	4月
4月	保健福祉学部 学科再編(現代福祉学科・子ども学科設置) デザイン学部 学科再編(ビジュアルデザイン学科・工芸工業デザイン学科・建築学科設置) 地域創造戦略センター吉備の杜推進室設置	2021 令和3	改正公職選挙法施行 選挙権18歳に	6月
			平成30年7月豪雨災害で県内に甚大な被害	7月
			「令和」に改元	5月
			消費税8%→10%(標準税率)	10月
			新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発令	4月
			レジ袋有料化スタート	7月
			東京オリンピック・パラリンピック開催	7・8月
			デジタル庁始動	9月

岡山県立大学が目指すもの

【三原】
このたび岡山県立大学は開学 30 周年を迎えました。振り返りますと、県立大学は岡山栄養科学園を祖とする岡山県立短期大学を前身として、1993 年に人間尊重と福祉の増進を建学の理念として開学しました。まず平野様にお伺いいたします。岡山県立短期大学の卒業生として、また総社市の職員を務められ、現在は同窓会の会長を務めていただいています。これまでの岡山県立大学にどのような印象をお持ちでしょうか。

【平野】
前身である岡山県立短期大学の卒業生ですので、県立大学を誇りに思っています。福祉の部分で、地域のため世のために何かやっていこうという精神が引き継がれ、総社に誘致されたことは、とてもうれしかったです。

【三原】
次に万殿様にお伺いをいたします。株式会社英田エンジニアリングの代表取

締役社長として、共同研究を進めていただいたり、本学の卒業生を雇用していただいたりと、おつきあいが 20 年以上になりますか。

【万殿】
25 年になりますね。

【三原】
四半世紀の関わりを持つとともに、今は岡山県立大学協会の会長もお引き受けいただいています。岡山県立大学にどのような印象をお持ちでしょうか。

【万殿】
最初はプロダクトデザイン研究会でデザイン学部の村木克爾先生と当社の創業者の青山操男が初めて会って、「デザインやるよ」といきなり言われました。当時、私は開発部長をしていました。従来の技術の人は機能さえ満足できれば、デザインなんてあまり気にしないというような人たちばかり。それで私に白羽の矢が立って、そこからの取組です。ご存じのように、共同研究でグッドデザ

MASAKI HARADA
原田 昌樹
岡山県総務部
総務学事課長(※)

ETSUKO HIRANO
平野 悦子
岡山県立大学
同窓会会長



※職名は撮影当時のものです。

イン賞を3回受賞しました。一番上位の賞は中小企業庁長官特別賞を「バース 21」という機械にいただきました。デザインを教わり、共同研究をする上で感じるのは、企業側の考え方などを理解してうまくおつきあいできていることです。

15年ぐらい前だと思うのですが、森下眞行先生と村木克爾先生、三原鉄平先生らと当社の若手社員とで一緒に2日間合宿をしました。缶詰めになって、単なる機能だけではなくデザイン性なども求めました。駐車場は町中にありますので、見た感じも格好良くないといけません。このコイン駐車場、おかげさまで業界 No.1 です。

今8名の県大卒業生が来ていますが非常に優秀です。まずコミュニケーション能力が非常に高いですね。コミュニケーション能力が高いので、先輩と仲良くなれ、教えてもらいながら、自分の実力を出していく。そういう社員が当社の中心になってうまく回しています。基礎的な学力も高く、企業で何が必要なのかをしっかりと教えてもらっている。それ



が県大のいいところではないかなと思っています。

それから、沖学長が中心になって進めている「吉備の杜」創造戦略プロジェクト。地元の企業と学生が勉強し学び合うという雰囲気もきちんできています。これを伸ばしていけたら本来の岡山県立大学のあるべき姿ができるのではないかなと思っています。

【三原】

とてもお褒めいただきました。次に原田様にお伺いいたします。岡山県総務部総務学事課は1993年の開学以来、また2007年に公立大学法人となってからも、設置者として、本学の評価を行ってこられました。

【原田】

県立大学の印象として、ちょっと物足りない、もっとできるのではないかなと思っています。岡山県内の企業では独自に研究開発部門を持たれているところが少ない。それを補完するような役割を大学に期待しています。特に情報工学部。製品のブラッシュアップについては、デザイン学部があります。コインパーキングのデザインのように、付加価値として加えることによって製品の価値を上げて、企業の儲けを拡大することができますと思います。

企業のそれぞれの力や技術をベースにもっと発展するような技術開発の協力をしたり、新製品の開発に協力したり、地域産業の振興という面でもっと力が出せるのではないかなと思います。

特に情報工学部の分野では、AIの導入やデータサイエンスの取組などがどんどん進んでいます。そこへデザインと組み合わせ高付加価値化を図り、企業の収益を上げるような協力ができるので

TAKASHI MANDONO

万 殿 貴 志

岡山県立大学
協力会会長

YOKO OKI

沖 陽 子

岡山県立大学長



岡山県立大学が目指すもの

はないでしょうか。

先ほど卒業生が優秀だと言われたのですが、人材の供給ですね。情報系とかデザイン系の優秀な人材を企業があまり抱えていない、欲しいけど抱えきれていない。そういった人材の供給が産業振興の面で求められているのかなと思っています。

また、地域の課題というのがあります。大学のある総社市との連携はできています。ただ、それ以外の市町村との連携はもっとできるかなと思います。

地方自治体はいろいろな課題を抱えています。学生の柔軟な発想や先生方の知見を組み合わせながら、課題の解決に協力していけるのではと思っています。

【三原】

では、冲学長にお伺いします。運営の当事者ということで、前任の岡山大学時代も含めて、岡山県立大学を見られてどのような印象を持ちでしょうか。

【沖】

私は皆さんと違い、県大とのお付き合いはまだ浅く、2009年からです。始まりは、こちらの教育研究審議会に学外委員として8年間務め、それから後、2017年に本学の副学長としてまいりました。この委員をやっているときには、岡山大学と比較してしまうことも結構ありました。

こちらは小規模な大学で、これはメリットだと思っはいるのですが、そのときに受けた印象というのは、静かすぎる、おとなしすぎる、もう少し元気があってもいいじゃないのということでした。正直、高校生活そのままを大学生活に延長しているのかなと感じましたので、活を入れたいという気持ちを持ったのは事実です。しかしながら、優等生であることは間違いない。そこから踏み外すことをためらっている、そういう学生さんが多いのかなという気がしました。

3学部しかありませんが、非常にユニークです。保健福祉学部、情報工学部、そしてデザイン学部。これは当時の長野士郎県知事が岡山大学にない学部をここに作りたいとおっしゃったそうです。これは財産ですので、これからも伸ばしたいと思っています。

【三原】

ありがとうございます。平野様、お願いします。

【平野】

企業に必要とされているとお聞きし、すごいなって思っています。看護の分野では、短大の時代から地域とつながりがありました。最近はもっと地域に出ているという感じを受けます。例えば、認知症カフェ。地域の認知症の方を呼んで定期的な催し物をやっています。体育館を使って企業、行政、大学が一緒

に健康づくりをやってきました。それでいて原田課長は、それでは足りないと言われる……。

【原田】

県立大学ならもっとできると思っています。

【三原】

これまでの実績を評価いただいた部分も、それからまだまだ足りないという御指摘もいただきました。

他の観点でもう少し期待したいということがございましたらお聞かせください。

【平野】

先ほど冲学長が、学生たちが静か過ぎると。それって県大に限らずどこにもあるような雰囲気ではないでしょうか。

【沖】

大学の特色があって、大学生活を楽しんでいるなという学生たちが多い場合と、先生からこう言われたからこれはきっちりしないといけないという学生たちが多い場合と、そこにカラーが出てきます。特に保健福祉学部の女子学生は優等生ですよ。だから発表の時など「わあすごいな」ってみんな思うのです。ところが、一歩踏み込んで「これはどうなの」って聞いたときに、一般的な答えしか返ってこない。ここが寂しいですよ。そこをもう少し鍛えると学生自身も楽しくなる。

【万殿】

学長さんもご存じの卒業生の「Oくん」という社員が、ある日突然、「社長、ネクストモノづくりプロジェクトをやっても



いいですか」と言ってきました。会社の3年先、5年先の新商品を考える部署、考える人が少ない。研究開発型の企業なので、それを常に考えておくことが必要だと。「分かりました。やってください」ということで、全社的に若い人を集めてやってくれている。外部からいろいろな先生に入っていただいてアドバイスを受けながら毎週取り組んでいます、非常に面白い。

【平野】

そういう意欲を大学の時代から持てるようにしたいですね。「吉備の杜」の広報誌に、大学が変われば学生が変わる。学生が変われば地域が変わると書いてあったと思います。本当にそうだと思います。

【沖】

もうひとつ、ユニークな産学協働研究があります。先ほどお話にありましたように、情報工学とデザインとはつながる。また、保健福祉ともつながる。それを私たちは横串と言っています。これを作ることによって、もっと楽しい活力のある学生たちが増えてくるし、イノベーションが生じていく、ここに期待したいのです。

【万殿】

アグリ事業を一昨年からやっていて、ニンニクや原木のシイタケを作っています。保健福祉学部の山本登志子先生と共同研究をさせてもらって、将来的には6次産業化したいのでデザインのことも考え、村木先生にも入っていただいています。スマート農業をやりたいので、情報工学も含め3学部の皆さんとワイ



ワイガヤガヤ言いながら一つの事業にしていきたいと思っています。それができるのは岡山県立大学しかないと思っています。うまくコラボレーションして、産官学の連携、「官」は補助金とかを出し情報を得る。「学」は知のいろいろな指導をしていただく。それを「産」である当社のような企業が一つの形にして、それで製品化し、事業化することを考えています。

【三原】

テーマ2つ目の「今後」に移りたいと思います。

若年人口が減っていて、2040年頃には今の2割くらいは少なくなるという推計が出ている状況です。振り返って、平成の30年間は県立大学の30年間とも重なりますが、この間少子化といわれ、一方でグローバル化が大きく進展したこともあり、留学生を受け入れながら人数が減っている部分をフォローできないかという試みが全国的になされてきました。ここにきて、グローバル化と逆流するような動きが世界的に出てきました。物価高や資源高もあり、日本もずいぶん円安になって、単純にグロー

バル化を推進すれば問題が解決するのかもしれない、そうではないフェーズに入りつつあるように感じます。最近では、岸田首相からリスクリングなどのテーマが出て、大学に学び直しを期待する部分が大きくなってきているのではないのでしょうか。

【原田】

要は学生に選ばれる大学にならないと生き残っていけない。やはり特徴を出すことでしょうか。沖学長から3学部のお話もありましたけれども、岡山大学にないことが県立大学で学べるようにならないといけない。県立大学を卒業するといふことがあるというような、要はブランド化です。

【三原】

ブランド力を上げて、特徴を出していくための取捨選択や未来の先取りが必要ということですね。

【原田】

学生から見て分かりやすいコンセプト、イメージの大学になることが、まず選ばれることの条件。あとは中身ですよ。



岡山県立大学が目指すもの

高齢化が進んでいますから、看護とか介護の担い手自体が不足しています。市町村や県と連携することで、学生から選ばれる大学になっていくのではないかなど。

数年前から県の支援で開講している講座では、情報工学部に社会人のリカレント教育を進めてもらっています。岸田首相のリスキングとはちょっと違うので

すが、要は企業に求められる人材を養成するために講座を設け、少し間口を広げていろいろなことに対応できるように期待しています。

【三原】

万殿様は、県立大学へどのようなことを期待されていますか。

【万殿】

企業と包括連携協定などを結ぶのはどうでしょうか。具体的には長期のインターンシップです。昨年、津山高専と包括連携協定を結びました。140時間で2単位になるのですが、学生さんが来て140時間の長い期間、一緒に研究開発を行いました。高専としては無償でしたいとのことでしたが、こちらから有



償でお願いしました。学生はアルバイト料をもらえるから一生懸命働く。企業はお金を出しているのだから、それなりの結果を出してもらおう。そこでお互いの真剣味というのが出てくる。インターンシップは終わっても、継続してアルバイ

トに週一回来て来ています。あわよくばウチを気に入ってもらえればウチに来てもらったらいいですし、他所に行かれてもいいと思います。

【平野】

学生も単に給料が高い就職先を選ばなくなっています。レベルが高く、きちんと研究して技術を磨いている、そういう職場を選びますとはっきりと言います。先ほど原田課長のブランド化ということも、本当にそう思います。保健福祉と、情報工学とデザインの3学部というのがユニークな取り合わせということも分かりました。横串の連携ができ、学生は社会に出ていろいろな人と手をつなげられることを感じました。そういうところで伸びてくれたらうれしいですね。

【三原】

沖学長は将来像についていかがお考えでしょうか。

【沖】

先般、公立大学協会の学長を対象としたセミナーで、総務省と文部科学省の職員から公立大学はどうあるべきかとの講演を聞かせてもらいました。その中の一つが人への投資、学生への投資です。大学としては地域人材の育成。もう一つは、先ほどもお話があった地域の課題を解決する、そして研究力を持つことです。

それを考えますと、本学でできることはリスキリング、学び直し。これを含めたリカレント教育です。このことにもう少し注力しているのではないかと思います。リカレント教育は、昔から本学では専門性を活かしてやっていたのですが、あまり前面に出ていなかっ

た。他の大学から見ると、かなり評価されています。

でも、それだけで今後生きていけるかということ、それは無理な話です。最近よく言われている「バックキャストिंग」という言葉がありますよね。30年ぐらい先の未来像をまずは描いてみて、そこから我々はどうしたらいいのか、この道順を考えることが必要です。

私たちはここまで30年間やってきたことがあるわけですね。そのベクトルと向こうからバックしてくるベクトルとが必ずしも一致はしない。そこにギャップが出て、そのギャップを活かせばイノベーションが起きる、そういう構図になるのです。

言葉で言うと簡単ですが、実際には学生の気持ちはもちろん、先生方、こちらの意識改革も必要です。そして今日お集まりいただいた学外から応援して下さるステークホルダーの皆様。この方々と一緒にどういう未来像が我々に必要なのか、そこから話し合っていくのではないかと思います。我々の大学、公立大学は、学び続ける

社会の基盤としての教育機関というところを外してはいけない。その上で、どのようにすれば学生たちに選んでもらえるか、やはり楽しくないとおもしろくないですね。それから卒業された方も、ここで学んでよかったと言われるような、そういう大学にしたいですね。次の30年間でやっていければと思っています。

【三原】

皆様から貴重なご意見、ご提案をいただきました。引き続き、岡山県立大学の発展に向け、お力添えをよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。



開学 30 周年記念事業実行委員会
三原 鉄平



岡山県立大学の施設



施設情報 Facility Information

- | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 保健福祉学部棟 Faculty of Health and Welfare Science 事務室(4F)</p> <p>2 学部共通棟(西) Common Lecture Building (West) 講義室 視聴覚室 ピアノ練習室 リズムダンス練習室等</p> <p>3 学部共通棟(南) Common Lecture Building (South) 大講義室 語学教育推進室 AV室 スタジオ 学部事務班等</p> <p>4 学部共通棟(東) Common Lecture Building (East)</p> <p>5 学部共通棟(北) Common Lecture Building (North)</p> | <p>6 デザイン学部棟 Faculty of Design 事務室(4F)</p> <p>7 アトリエ棟 Arts and Craft Studios</p> <p>8 情報工学部棟 Faculty of Computer Science and System Engineering 事務室(1F)</p> <p>9 情報工学部 教育・研究棟 Education and Research Building</p> <p>10 エネルギーセンター Utilities Control Center</p> <p>11 学生会館 Student Union, Cafeteria, convenience store 食堂 喫茶 コンビニ 学生支援室(SAS) 茶室等</p> | <p>12 附属図書館 University Library</p> <p>13 同窓会館 Alumni Hall</p> <p>14 講堂 Auditorium</p> <p>15 大学本部棟 Administration Office 学長室 事務局 保健室等</p> <p>16 体育館 Gymnasium</p> | <p>A 陸上競技場 Athletic Field</p> <p>B グラウンド Sports Ground</p> <p>C テニスコート Tennis Court</p> <p>D 野球場 Baseball Ground</p> <p>E プール Swimming Pool</p> <p>F 部室棟 Student's Club House</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



▲ 各種講演会などで利用される講堂



▲ 学部棟(デザイン・情報工学)とシンボルツリー



▲ 「工芸工業デザイン」「建築」の活動の場・アトリエ棟



▲ 様々な学術情報を備える附属図書館



▲ 事務局窓口や会議室のある本部棟



▲ 400mトラックを有する陸上競技場



▲ 大学構内を流れる中道川



▲ 2014年度グッドデザイン賞を受賞した同窓会館



▲ 食堂・喫茶やコンビニのある学生会館

データで見る岡山県立大学



1569人

学部生数

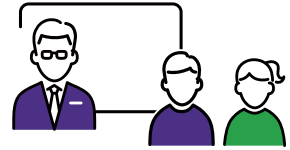
2022年5月時点



150人

教員数

2022年5月時点



10.46人

教員一人当たりの
学部生数

2022年5月時点



98.4%

就職率

2022年度卒業生



100%

看護師合格率

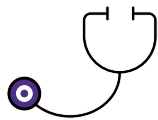
2022年度国家資格合格率



100%

助産師合格率

2022年度国家資格合格率



100%

保健師合格率

2022年度国家資格合格率



90.2%

管理栄養士合格率

2022年度国家資格合格率



86.7%

社会福祉士合格率

2022年度国家資格合格率



100%

介護福祉士
合格率

2022年度国家資格合格率



21人

保育士取得者

2022年度国家資格合格率

岡山県立大学キャンパスソング「鮮緑の風」

作詞・作曲 高畑 月乃

緑の風を感じて空を見上げた
眩しい吉備路の空開けてる

わからない未来、夢なんてと目を閉じていたけれど
花は咲いてる
笑顔と言葉の花

明日（あした）へ駆け出してく
新しい風を起こすために

あの日出会ったものはつながり
今を輝かす
すべての思いは希望のための鍵

晴れる心、広い空の下で
見てた楷（かい）の木

岡山県立大学で
道を作り出して

心のまま
開く未来へ走りだそう

キャンパスソング音源



制作の経緯

2020年、本学のPRプロジェクトのひとつとして大学独自の歌を作る取組が始まりました。保健福祉学部 安久津太一教授の指導のもと、同学部の卒業生 高畑月乃さん（当時3年生）による作曲から始まり、キャンパスをイメージした「コトノハ」の募集や、学生たちがアイデアを出し合うワークショップの開催などにより、2021年3月23日、岡山県立大学キャンパスソング「鮮緑の風」として完成しました。

《鮮緑の風》とは、新鮮で力強く、若さを感じさせるあざやかな緑の風が通る、自然あふれるキャンパスにちなんで命名されました。

合唱曲作曲の第一人者である松井孝夫氏による曲作りへの助言や、作曲家の齊藤武氏による吹奏楽版へのアレンジなど、学外の専門家の協力もいただいています。

今後、大学の行事やPR活動を音楽で彩ります。



岡山県立大学

OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

